

## 8

## 短歌・俳句の鑑賞①

## 短歌・俳句の表現をつかむ

漢字の成り立ち

学習日

## 解法の解説

## ◇短歌・俳句の表現をつかむ◇

## 〈短歌〉

短歌は、「五／七／五／七／七」の五句三十一音から成る定型詩です。前の「五／七／五」を上かみの句、あとの「七／七」を下しもの句といいます。また、三十一音よりも音数の多いものを「字余り」、少ないものを「字足らず」といいます。短歌を数えるときは「首」ということばを使い、「一首、二首、三首……」と数えます。

短歌には、意味や調子の上で切れるところ（句切れ）がある場合があります。文の終わりとして句点をつけられるところが句切れになると覚えておきましょう。初句の五音で切れるものを初句切れ、二句までで切れるものを二句切れ、三句までで切れるものを三句切れ、四句までで切れるものを四句切れといいますが、句切れなしの短歌もあります。たとえば、次の短歌は、最初の五音の「海恋し」のあとで意味が切れているので初句切れになります。

例 海恋し 潮の遠鳴り数へては少女となりし父母の家

与謝野晶子

短歌には、「枕詞」という特別な表現法があります。枕詞は、いつも決まったことばの上につく修飾語で、特定の意味はありませんが、短歌の調子をととのえる働きをします。次の短歌で

は、「たらちねの」が「母」に結びつく枕詞になっています。

## 例

のど赤き玄鳥ふたつ屋梁にゐてたらちねの母は死にたまふなり

斎藤茂吉

## 〈俳句〉

俳句は、「五／七／五」の三句十七音から成る定型詩です。俳句には、句の中に必ず、季節を表すことば（季語・季題）を入れるという決まりがあります。次の俳句では、「五月雨」が夏の季語になっています。

例 五月雨をあつめて早し最上川

松尾芭蕉

俳句には、「や」「かな」「けり」など、意味や調子の上での切れ目を表す特別なことばがあり、これを「切れ字」といいます。切れ字は、作者の感動の中心を示します。次の俳句では、「や」という切れ字が、作者の感動の中心が「閑かさ」にあることを示しています。

例 閑かさや岩にしみ入る蝉の声

松尾芭蕉

確認問題

1 次のそれぞれの短歌を味わい、あとの問いに答えなさい。

A ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花のちるらむ

紀友則

B 向日葵は金の油を身にあびてゆらりと高し日のちひささよ

前田夕暮

C 石崖に子ども七人腰かけて河豚を釣り居り夕焼小焼

北原白秋

D 白鳥はかなしからずや空の青海のあそにも染まずただよふ

若山牧水

E くれなるの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨のふる

正岡子規

□(1) Aの短歌がおさめられている、平安時代に編まれた勅撰和歌集の名前を漢字で書いて答えなさい。

□(2) Bの短歌の「金の油」とは何をたとえていますか。三字以内で書いて答えなさい。

□(3) AとEの短歌には、枕詞(一定の語句を修飾し、語調を整えることば)が用いられているものが一つあります。その枕詞を書きぬいて答えなさい。

--	--

□(4) AとEの短歌には、擬態語(事物の状態や身ぶりなどの感じをいかにもそれらしく表したことば)が用いられているものが一つあります。その擬態語を書きぬいて答えなさい。

□(5) AとEの短歌から、体言止め(名詞で終わらせる表現技法)が用いられているものを一つ選び、記号で答えなさい。

□(6) AとEの短歌から、二句切れのものを一つ選び、記号で答えなさい。

□(7) AとEの短歌の解説文として最もふさわしいものを、それぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- ア 情景がかげ絵のようにかがび上がってきて、そのまま童話になるような世界を感じさせる。
- イ 色の対比をあざやかに感じさせながら、悲しみと孤独が歌われている。
- ウ 遠近法を用いた一枚の絵画を思わせるような作品で、真夏の情景をえがいている。
- エ のどかな春の一日にあわただしく散っていく花を、擬人法を用いて歌っている。
- オ 対象を正確にとらえて自分の感情をおさえて表現する写生という手法が用いられている。

A	
B	
C	
D	
E	